



# Health Sciences Leadership Program

## 履修要項

### **Full Membership**

版番号： Ver. 02.03  
改訂年月日： 2017年7月6日

東京医科歯科大学

## 目次

趣旨と背景.....	1
育成する人材像.....	3
本プログラム修了までに修得すべき資質（コンピテンシー） .....	4
アドミッションポリシー.....	5
カリキュラムポリシー.....	6
履修継続要件、履修復帰要件、修了要件.....	12
履修方法、履修取消、成績、授業時間、講義室.....	14

## 背景と趣旨

日本が国内での対応に追われ、海外への視野を閉ざしていた、バブル崩壊後の 20 年間に、積極的な海外の国々は市場や事業運営においても、世界へとフィールドを広げた。そして現在先進国と発展途上国との格差はさらに狭まり、国家間の数々の垣根も徐々に取り払われてきた。今こそ日本も積極的な世界展開を図り、躍進を遂げなければ、もはや主要国としての地位を保つことはできない。しかし現状は、日本から海外への留学者数は減少する一方で、海外勤務を希望しない若手社員は増加している。他のアジア諸国が積極的に海外留学数を増やしている中で、日本はむしろ遅れをとっている。

医療においても例外ではない。確かに日本は、がん治療や内視鏡検査などでは高度な医療水準を保有し、人口 100 万人当たりの医療機器保有台数も他国に比べると群を抜いて高い。そして、これら先進機器に加え、世界に誇れる国民皆保険制度により、世界最高水準の平均寿命を実現している。しかし、情報技術の革新と人の移動の増加により医療の国際標準化のニーズが高まりつつあるなか、日本の医療現場の実情はどうであろうか。以前より大病院では「3 時間待ちの 3 分診療」と揶揄されてきたが、高齢化により医療保険財政がますます逼迫し、医療提供者の勤務はさらなる過酷化が予想される中で、国際標準に沿った質の高い医療を提供するのは容易ではない。実際、医療の国際標準化を目的とした国際的病院評価認証機関 (Joint Commission International, JCI) により認証を受けた国内医療機関はまだ少ない。一方、他のアジア諸国では、既に多くの医療機関が認証を受けている。さらに深刻なのは、提供される医療の国際標準化の遅れだけでなく、医療を創り出す生命科学研究、国際保健・医療政策、そして医療産業の分野においても、グローバルな舞台における日本のプレゼンスがどんどん失われつつあることである。

例えば生命科学研究分野では、現在日本は医薬品・医療機器分野でも輸入超過に陥っており、その基盤となる基礎研究における国際競争力が低下している。論文数を研究活動のアウトプットとしてをみた場合、日本は米中英独に次いで第 5 位まで落ち込んでいる。各分野の Top10% 論文数シェアでは日本の低迷はさらに顕著であり (米英独中仏に次ぎ第 6 位)、国際共著率も低い (英仏独米に次ぎ第 5 位)。さらに、大学院生や教員において内向き思考が広がっており、海外研究留学希望者数も減少している。

また、国際保健/医療政策分野では、日本は国連拠出金が米国に次いで第 2 位であるにもかかわらず、他の国連機関と同様に、世界保健機関 (WHO) においても日本人スタッフ数は、加盟国中でもかなり低い (人口や拠出金額から概算される望ましい職員数の 23-31% 程度)。これは、志願者が少ないからでは決してなく、特に語学力の観点から我が国からの応募者が選考に耐えられないことに大きく起因している。本分野におけるリーダーの輩出は喫緊の課題である。

医療産業分野については、例えば近年アジア各国では医療観光産業が発展しているが、日本にはそれらの国を上回る高い医療技術・サービスがありながら、大きく出遅れている。政府の新成長戦略のもと観光庁が進める医療観光等医療産業分野の発展のためには、高い英語

運用力のもと質の高い医療サービスを提供できる人材育成が遅れている。

このような、日本の医療における国際標準化の遅れ、そして医療の革新・医療政策・医療産業という分野での日本のプレゼンスの低下は、世界の共通言語である英語の運用力が低いことだけではなく、世界という広い視点のもとで、世界において日本が果たすべき役割を理解し、その上で複雑な国際医学・医療問題の解決のために様々な文化背景の相手と建設的に議論・協同できる高い教養と知的スキル・対人スキル・リーダーシップスキルが欠如していることにも起因している。

成熟した国家である日本が、主要先進国として、今後、生命科学研究・国際保健/医療政策・医療産業分野において世界を支え牽引し、人類の発展に健康面から貢献するためには、それら分野でグローバルな舞台でリーダーとして活躍する人材の育成が急務である。

本学は、「知と癒しの匠を創造し、人々の幸福に貢献する」という基本理念の下に、「幅広い教養と豊かな感性を備えた人間性の涵養」、「自己問題提起、自己問題解決型の創造的人間の養成」、そして「国際性豊かな医療人、研究者養成」という三つの教育理念を掲げ、これまでに教育および研究における国際化を積極的に進めてきた。それを受け、グローバルなキャリアを志す学生が本学には多く入学してくる。実際、入学直後に施行している TOEFL の平均点は年々高まっており、また卒業までに海外留学を経験する者の比率も上昇しつつある。その本学が、日本が主要先進国として生命科学研究・国際保健/医療政策・医療産業分野において世界を支え牽引していくために中心的役割を担う、グローバルな舞台でリーダーとして活躍し変革を生み出すことのできる人材を育成することは、本学に課せられた使命であると認識し、ここに本プログラムを開設するに至った。

## 育成する人材像

成熟した国家である日本が、主要先進国として、生命科学研究・国際保健/医療政策・医療産業分野において世界を支え牽引していくために中心的役割を担う、グローバルな舞台でリーダーとして活躍し、変革を生み出すことのできる人材を育成する。

### 【共通する点】

- ・ 日本人としてのアイデンティティに誇りを持ち、日本の歴史／文化／制度に習熟しており、世界において日本が果たすべき役割を十分理解している。
- ・ 文化（歴史／経済／宗教／習慣／行動様式／食生活など）や価値観を異にする人達とふれあう経験を豊富に積み、文化および価値観における多様性を十分理解し、尊重する。
- ・ 世界共通言語である英語の、言語としての運用力のみならず、英語母語者／非母語者を含めた様々な人達を相手に英語で議論でき、協働し、そして、リーダーシップを発揮して様々なステークホルダーに変容を起し、医学・医療・社会に変革を生み出すことができる。

### 【活躍する分野に特異的な点】

- ・ 生命科学研究分野におけるリーダー
  - 高い問題解決能力と十分な臨床経験を基盤に生命科学研究に従事し、国内のみならず、国外も含めた最先端研究機関に積極的に応募/在籍し、切磋琢磨を通して世界最先端の研究を行うとともに、当該研究分野におけるリーダー/フロントランナーとしてその発展に貢献する。
  - 生命科学研究分野での後継者育成に国内外で尽力する。
- ・ 国際保健/医療政策分野におけるリーダー
  - 疫学/統計/環境/医療政策/社会・行動科学に関する深い理解があり、また高い倫理観を有する。
  - 学士課程修了後、高い専門技術の修得および専門領域での豊富な経験を積み、それら専門的背景を持った上で国際保健/医療政策決定機関に従事し、中心的役割を果たす。
  - 国際保健/医療政策分野での後継者育成に国内外で尽力する。
- ・ 医療産業分野におけるリーダー
  - 世界共通言語である英語の、言語としての運用力のみならず、英語母語者/非母語者を含めた様々な人達を相手に英語で医療サービスを提供できる高い能力を有する。
  - 学士課程修了後、高い専門技術の修得および専門領域での豊富な経験を積み、それら専門的背景を持った上で医療産業に従事し、同産業を牽引する。

## 本プログラム修了までに修得すべき資質（コンピテンシー）

前述した趣旨および育成する人材像にもとづき、本プログラム修了までに履修生が修得すべき資質（コンピテンシー）を、以下のように規定した。また、育成される人材がグローバルな舞台でリーダーとして活躍し変革を生み出すにおいて、それら資質群が有機的に作用しあう機序を示す図を右下に付した。なお、各コンピテンシーについての詳細および習得方法を記した表が、本要項最後に付されている。

### 【Technical Expertise】

- 基礎医学知識※<sup>1</sup>
- 臨床知識※<sup>1</sup>
- 公衆衛生学知識※<sup>1</sup>
- グローバルヘルス知識
- 関連する人文社会科学知識
- 語学力

### 【Teambuilding Functions】

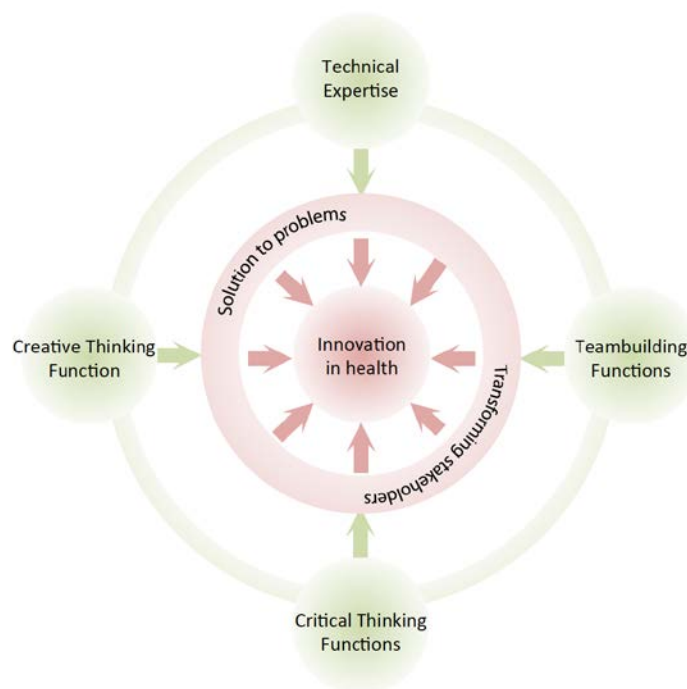
- 異文化知識・対応力
- チームワーク
- マネジメントスキル
- リーダーシップスキル

### 【Critical Thinking Functions】

- クリティカル・シンキング・スキル
- 情報リテラシー
- 探求・分析力
- 読解力
- 口頭コミュニケーション能力
- 文章コミュニケーション能力

### 【Creative Thinking Functions】

- 創造的思考力



育成される人材がグローバルな舞台でリーダーとして活躍し変革を生み出すにおいて、本プログラムで獲得する資質群が有機的に作用しあう機序を示す図

※<sup>1</sup> これらの系統的学習は各学科教育課程において適切な目標設定のもとに行われるため、本プログラムではそれら知識の応用・統合に主眼を置く。

## アドミッションポリシー

本プログラムが掲げる育成目標に鑑みて、本学第1学年学生※<sup>1</sup>のうち、下記に該当する者を求める。

- ・ ヘルスサイエンス領域における将来のグローバルリーダーを目指すという視点から、前項で記した資質（本プログラム修了までに履修生が修得すべき資質（コンピテンシー））の習得の重要性を十分理解し、それに対して強い意欲・熱意を有し、コミットできる
- ・ 入学後の修学態度が良好である
- ・ 本プログラムが掲げる育成目標達成の観点、および本プログラム履修および正規科目履修に支障を来さないという観点から必要とされる一定レベル以上の英語運用力を有する

※<sup>1</sup> 編入生も含め、若干名に限り、年度末に追加募集を行い第2学年前期からの履修を許可する場合がある。その場合、同様の選考基準・選考過程により選考する。なお、学業不振により留年した学生は除く。

## カリキュラムポリシー

- ・本プログラムのコンピテンシーは、知識伝達型の授業などで短期的に修得できるものではない。したがって、授業では将来直面するであろう現実的で複雑な問題への取組（ケースメソッドやプロジェクトワークなど）を通して、低学年のうちから、学習ステージに適した形で実践的にそれらを修得する（スパイラル・カリキュラム）。また、科目の一部または課外セッションとして、適宜ワークショップなどを実施する。
- ・ **Technical Expertise** におけるコンピテンシーで、その理解/応用のために系統的/包括的な学習機会が必要と思われるものについても、できる限り問題解決取り組みに絡めて効果的に学習できるようカリキュラムを組む。
- ・学習セッションは基本的にすべて英語で行う（一部において、学生の学習段階および理解/応用順序を考慮して、日本語による学習機会を設ける場合がある）。英語運用力アップが必要な履修生に対しては、英語を母語とする教員による少人数特訓コースを提供する。
- ・学習は、科目内で設定される全体セッションの他、グループおよび個人レベルでの取組を通して行われる。また、グループでの取組の補助として、そして個人レベルでの学習成果の蓄積および省察/自己課題設定/メンターによるフィードバックを目的として、e-portfolio システム「e-SALON (e-portfolio for Students Aspiring to be Leaders in health sciences Of the Next generation)」を活用する。
- ・海外留学参加を本プログラム修了要件とする。各履修生の長期的キャリアビジョンに沿った時期/内容の海外留学参加を通して視野を広げ、キャリアビジョンをより確立させ、そしてそれまでに修得した能力を更に磨く。単位取得を伴う海外留学プログラムのほか、海外の公衆衛生大学院など、本学の単位の取得を伴わない留学についても考慮される。
- ・高学年においては後輩の学習にチューターとして参加し、議論を深め刺激するとともに、教えることにより更に学習する（チュータリング「Tutoring Experiences (TE)」）。
- ・各科目の履修修了判定を得るためには、あらかじめ各科目で規定する修了要件を満たさなければならない。なお、履修修了に際する出席要件としては、東京医科歯科大学試験規則に准じて、講義及び演習では当該授業科目の授業時間数の3分の2以上、実習では当該授業科目の授業時間数の4分の3以上の履修を必要とする。
- ・本プログラムの履修科目については、全学科共通自由科目として単位付与を行う。
- ・学生の利便性および所属する学科/専攻における授業時間割に配慮し、授業時間を設定する。学科/専攻における時間割状況にもとづき、本プログラム科目の一部について規定時間帯の履修が不可能な場合においては、録画映像を通しての履修や長期休暇などにおける補講などにて対処する。
- ・医学部医学科および歯学部歯学科学生においては、他学科学生に比してより深い基礎医



学知識/臨床知識の理解とその応用力養成の必要性が高いことから、本プログラム修了のために履修が必要な科目数が他学科/専攻の学生と比較して1つ多い（Problem-solving in the Health Sciences）。

- 専門職業人育成のための教育機関であることに起因する授業時間割の過密さと学生への負担軽減に配慮し、本プログラム科目の履修時期には可能な限り余裕を持たせる。

以下に、本プログラムにおける必須履修科目を記す。

科目	授業責任者	講義等の内容
Moral and Political Philosophy for Medicine (MPP) (旧 LHS 1) (1 単位)	高田和生	This course will examine ethical, economical, and political, as well as scientific aspects, of some important health policy issues currently facing the world. This course will thus cover, through the examination of those issues, relevant areas of philosophical theories, economics, including political and historical analyses to allow learners to understand background issues, history, and constraints, so as to be able to make a positive contribution to current debates. Throughout the course, learners will have ample opportunities to exercise and sophisticate many of the skills listed in the program's graduation competencies, such as critical thinking skills, inquiry and analysis, information literacy, communication skills, leadership skills, and teamwork.
Introduction to Medical Anthropology (IMA) (旧 LHS 2) (1 単位)	Rebecca Carlson	From intimate perceptions of "quality of life," to the geo-politics of emerging infectious diseases, medicine is only ever practiced and received through culture. As contributors to a global health care community, young medical practitioners benefit from an understanding of modern health as a fundamentally biosocial domain positioned at the intersection of the science of medicine and cultural values and ideas regarding sickness, the body, and life itself. As an introduction to Global Health topics, this class focuses on contemporary real world health issues from a biosocial perspective. Students will analyze specific case studies surrounding the 2014 Ebola outbreak in West Africa to consider the way social elements shape individual experiences of illness and how history, power and social inequality contribute to ongoing health disparities around the world. These problem-based studies will allow students to improve their critical and creative thinking, further develop their teambuilding and information literacy skills and grow their intercultural knowledge.
Bio-social Research Methods (BRM) (旧 LHS 3) (1 単位)	Rebecca Carlson	Building on the biosocial toolkit introduced in IMA, students will develop a semester long research project on a global health topic in order to further explore the relationship between biology and society. These research projects begin with an exploration of bio-medical topics, including research on pathophysiology and clinical presentation, and then expand to include an examination of the social and structural determinants that shape the illness experience for individual patients and their societies more broadly. These research projects will allow students to further develop their knowledge of current global health topics, as well as their critical thinking, communication and information literacy skills.
Decision-making in the Health Sciences (DHS) (旧 LHS 4) (1 単位)	Rebecca Carlson	In this course, students will evaluate and create health initiatives for various diseases and settings through case studies and role-play. Specifically, students will use research articles to determine the general components of diverse health policy approaches at different scales, and then apply these elements in the creation of initiatives targeted to concrete health challenges currently facing Japanese society. This will involve searching for root causes and then creatively problem solving to overcome or incorporate these factors in intervention planning. A major focus of this course is also on the development of facilitation skills. Students are given ownership over the course material and activities, and run many of the sessions themselves, working in teams to improve their leadership, decision-making and communication skills.
Problem-solving in the Health Sciences (PHS) (旧 LHS 5) (1 単位)	高田和生	As the last course to undertake in HSLP, this course will challenge you with difficult tasks and force you to use and sophisticate all the skills listed under the HSLP graduation competencies. For this purpose, we will use problem-based learning (PBL) in this course. The course is structured around cases which will be chosen carefully from important contemporary issues in medicine, and tasks will be formulated so that they are complex, difficult, and challenging, and require a well-thought out step-wise plan to solve. Each group will have a fixed tutor throughout the course who will assess the group's problem solving and individual student's participation as well as contribution to their group's problem solving, leadership skills,

		management skills, and teambuilding skills for summative as well as formative purposes.
Contemporary Japanese Society (CJS) (旧 GP 1) (1 単位)	Rebecca Carlson	Through an examination of contemporary Japanese society, this course introduces students to the basic social science concepts necessary to recognize, and then critique, their own biases and preconceptions about the world around them. This is essential step to understanding the impact society has on individual health and modern health care systems. This class builds on previous HSLP course work, where students were introduced to concepts of power and social structures as causes of global inequalities, and provides essential analytical methods to help students continue to grow their biosocial toolkit. We will do this through an exploration of Japan's plural health system and patient explanatory models, including attention to the historical development of "sickness" and the practice of health care in Japan.
Applied Critical Thinking for Health Sciences (ACT) (旧 GP 2) (1 単位)	Janelle Moross	Building on the Critical Thinking Boot Camp, Applied Critical Thinking for Health Sciences will allow students to critique health-science-related topics. A typical workshop will involve a receiving brief introduction to a topic which allows room for disagreement, discussing it, building a logical argument with a partner, presenting this in small groups, and critiquing it according to the standards of critical thinking. Students will provide peer feedback. This course will involve no homework.
Fundamentals of Global Health (FGH) (旧 GP 3) (1 単位)	Janelle Moross	From infectious disease outbreak to global burden of non-communicable diseases, maintaining a healthy population is increasingly a challenge as the world population becomes more mobile and diverse and as people come to live longer in both developed and developing countries. This course is designed to provide students with a basic understanding of global health landscape and the factors that structure health inequities around the world. It will first examine the way biological and social (political, economic, environmental, and cultural) factors issues are intertwined in the human experience of health at the individual and societal levels, and then explore major issues of global health. Students will have ample opportunities to analyze current controversies and seek solutions to complex health challenges. Key topics are determinants of health, global burden of disease, sustainable development goals (SDGs), global health governance, health systems, and innovations in global health.

以下に、本プログラムにおける必須履修科目の履修時期および履修に際しての必須要件を記す。

科目名	2017年度 開講時期	時間 <sup>*1</sup>	曜日 <sup>*1</sup>	回数	主たる対象者	必須要件
Contemporary Japanese Society (CJS) (旧 GP1)	前期	16:20～17:40	火	12	2016 年秋および 2017 年春履修開始学生 (いずれも医学科以外)	特になし
Applied Critical Thinking for Health Sciences (ACT) (旧 GP2)	前期	16:30～17:50	水 <sup>*2</sup> (第 3 学年)	12	2015 年秋および 2016 年春履修開始学生 (いずれも医学科)	・ Critical Thinking bootcamp の受講
		18:30～19:50	木 (第 2 学年)		2016 年秋および 2017 年春履修開始学生 (全学科)	
Fundamentals of Global Health (FGH) (旧 GP3)	後期	18:00～19:20	木	12	2016 年秋および 2017 年春履修開始学生 (全学科)	・ ACT(旧 GP2)の修了
Moral and Political Philosophy for Medicine (MPP) (旧 LHS1)	後期	18:30～19:50	火	12	2016 年春および 2017 年秋履修開始学生 (全学科)	特になし
Introduction to Medical Anthropology (IMA) (旧 LHS2)	後期	17:00～18:20	火	12	2017 年春および 2017 年秋履修開始学生 (全学科)	特になし
Bio-social Research Methods (BRM) (旧 LHS3)	後期	19:30～20:50	木	12	2016 年秋および 2017 年春履修開始学生 (全学科)	特になし
Decision-making in the Health Sciences (DHS) (旧 LHS4)	前期	18:00～19:20	水	12	2015 年秋および 2016 年春履修開始学生 (全学科)	・ ACT (旧 GP2) の修了 ・ BRM (旧 LHS3) の修了
Problem-solving in the Health Sciences (PHS) (旧 LHS5)	後期	18:00～20:00	水	12	2015 年秋および 2016 年春履修開始学生 (いずれも医/歯学科のみ)	・ MPP(旧 LHS1)の修了または同時期履修 ・ ACT (旧 GP2) の修了 ・ FGH (旧 GP3)の修了 ・ DHS (旧 LHS4) の修了

<sup>\*1</sup> 学科/専攻における時間割状況にもとづき臨時で変更する場合がある。また、学科/専攻の必須/選択科目履修のため参加できない授業分については補講を行う。

<sup>\*2</sup> 2018 年度は、木曜日のみ開講予定。

以下に、本プログラムにおける必須履修科目の推奨履修モデルを記す。あくまで各学科/専攻時間割にもとづく推奨モデルであり、具体的な履修計画策定・変更に関しては、早期にメンター（教員）に相談すること。

推奨履修モデル						
	第1学年	第2学年	第3学年	第4学年	第5学年	第6学年
2017年秋履修開始 (医学科)	IMA MPP	ACT FGH BRM	DHS PHS CJS	Tutoring Experiences 卒業までに規定回数を要修了		
(歯学科)	IMA MPP	ACT CJS FGH BRM	DHS PHS	Tutoring Experiences 卒業までに規定回数を要修了		
(保健衛生学科/ 口腔保健学科)	IMA MPP	ACT CJS FGH BRM	DHS	Tutoring Experiences 卒業までに規定回数を要修了		
2017年春履修開始 (医学科)		ACT FGH BRM IMA	DHS PHS CJS MPP	Tutoring Experiences 卒業までに規定回数を要修了		
(歯学科)		ACT CJS FGH BRM IMA	DHS PHS MPP	Tutoring Experiences 卒業までに規定回数を要修了		
(保健衛生学科/ 口腔保健学科)		ACT CJS FGH BRM IMA	DHS MPP	Tutoring Experiences 卒業までに規定回数を要修了		
2016年秋履修開始 (医学科)	IMA MPP	ACT FGH BRM	DHS PHS CJS	Tutoring Experiences 卒業までに規定回数を要修了		
(歯学科)	IMA MPP	ACT CJS FGH BRM	DHS PHS	Tutoring Experiences 卒業までに規定回数を要修了		
(保健衛生学科)	IMA MPP	ACT CJS FGH BRM	DHS	Tutoring Experiences 卒業までに規定回数を要修了		
2016年春履修開始 (医学科)		IMA FGH BRM IMA 夏期集中履修にて履修	DHS PHS ACT MPP	Tutoring Experiences 卒業までに規定回数を要修了		
(保健衛生学科)	CJS	IMA FGH ACT BRM	DHS MPP	Tutoring Experiences 卒業までに規定回数を要修了		
2015年秋履修開始 (医学科)	CIS/GP1 LHS1	IMA/LHS2 FGH/GP3 BRM/LHS3	DHS/LHS4 PHS/LHS5 ACT/GP2	Tutoring Experiences 卒業までに規定回数を要修了		
(歯学科)	CIS/GP1 LHS1	IMA/LHS2 ACT/GP2 FGH/GP3 BRM/LHS3	DHS/LHS4 PHS/LHS5	Tutoring Experiences 卒業までに規定回数を要修了		
(保健衛生学科)	CIS/GP1 LHS1	IMA/LHS2 ACT/GP2 FGH/GP3 BRM/LHS3	DHS/LHS4	Tutoring Experiences 卒業までに規定回数を要修了		
2015年春履修開始 (医学科)	夏期集中履修にて履修 CIS/GP1	ACT/GP2 FGH/GP3 IMA/LHS2 BRM/LHS3	DHS/LHS4 PHS/LHS5 MPP/LHS1	Tutoring Experiences 卒業までに規定回数を要修了		
2014年秋履修開始 (医学科/歯学科)	CIS/GP1 MPP/LHS1	ACT/GP2 FGH/GP3 IMA/LHS2 BRM/LHS3	DHS/LHS4 PHS/LHS5	Tutoring Experiences 卒業までに規定回数を要修了		
(保健衛生学科)	CIS/GP1 MPP/LHS1	ACT/GP2 FGH/GP3 IMA/LHS2 BRM/LHS3	DHS/LHS4	Tutoring Experiences 卒業までに規定回数を要修了		
2014年春履修開始 (医学科/歯学科)		ACT/GP2 FGH/GP3 IMA/LHS2 BRM/LHS3 CIS/GP1	DHS/LHS4 PHS/LHS5 MPP/LHS1	Tutoring Experiences 卒業までに規定回数を要修了		
2013年秋履修開始 (医学科/歯学科)	CIS/GP1 MPP/LHS1	ACT/GP2 FGH/GP3 IMA/LHS2 BRM/LHS3	DHS/LHS4 PHS/LHS5	Tutoring Experiences 卒業までに規定回数を要修了		

## 履修継続要件、履修復帰要件、修了要件

修了・履修継続・復帰の判定および承認は、統合教育機構において行う。

### 履修継続要件および修了要件

医学部医学科学生および歯学部歯学科学生

(第1学年から第2学年への進級に際しての本プログラム履修継続のための要件)

- ・ 入学からの通算 GPA<sup>※1</sup>にもとづく学年内席次が原則上位2/3以内であること  
(HSLP 履修継続と学科/専攻における学習との両立の実現/維持可能性判断のために本要件を設ける)
- ・ 本プログラムにおける修学態度が良好であること

(第2学年から第3学年への進級に際しての本プログラム履修継続のための要件)

- ・ 入学からの通算 GPA<sup>※1</sup>にもとづく学年内席次が原則上位2/3以内であること  
(HSLP 履修継続と学科/専攻における学習との両立の実現/維持可能性判断のために本要件を設ける)
- ・ 本プログラムにおける修学態度が良好であること

(第3学年から第4学年への進級に際しての本プログラム履修継続のための要件)

- ・ 本プログラムにおける修学態度が良好であること

(第4学年から第5学年への進級に際しての本プログラム履修継続のための要件)

- ・ 本プログラムにおける修学態度が良好であること

(第5学年から第6学年への進級に際しての本プログラム履修継続のための要件)

- ・ 本プログラムにおける修学態度が良好であること

(本プログラム履修修了のための要件)

- ・ 本プログラムにおける必須履修科目を全て履修修了していること
- ・ チュータリング<sup>※2</sup>を修了していること
- ・ 本プログラムにおける修学態度が良好であること
- ・ TOEFL iBT 100 点以上
- ・ HSLP のコンピテンシーすべてについて Capstone に到達していること
- ・ 単位取得を伴う海外留学プログラムへ参加していること (海外の公衆衛生大学院など、本学の単位の取得を伴わない留学についても考慮されうる)

※1 各学科専門科目履修内規による。

※2 詳細はチュータリング要項に記載。

医学部保健衛生学科学生および歯学部口腔保健学科学生

(第1学年から第2学年への進級に際しての本プログラム履修継続のための要件)

- ・ 入学からの通算 GPA<sup>※1</sup>にもとづく学年内席次が原則上位2/3以内であること  
(HSLP履修継続と学科/専攻における学習との両立の実現/維持可能性判断のために本要件を設ける)
- ・ 本プログラムにおける修学態度が良好であること

(第2学年から第3学年への進級に際しての本プログラム履修継続のための要件)

- ・ 入学からの通算 GPA<sup>※1</sup>にもとづく学年内席次が原則上位2/3以内であること  
(HSLP履修継続と学科/専攻における学習との両立の実現/維持可能性判断のために本要件を設ける)
- ・ 本プログラムにおける修学態度が良好であること

(第3学年から第4学年への進級に際しての本プログラム履修継続のための要件)

- ・ 本プログラムにおける修学態度が良好であること

(本プログラム履修修了のための要件)

- ・ 本プログラムにおける必須履修科目を全て (Problem-solving in the Health Sciences (PHS)を除く) 履修修了していること
- ・ チュータリング<sup>※2</sup>を修了していること
- ・ 本プログラムにおける修学態度が良好であること
- ・ TOEFL iBT 100 点以上
- ・ HSLP のコンピテンシーすべてについて Capstone に到達していること
- ・ 単位取得を伴う海外留学プログラムへ参加していること (海外の公衆衛生大学院など、本学の単位の取得を伴わない留学についても考慮される)

※1 各学科専門科目履修内規による。

※2 詳細はチュータリング要項に記載。

## 履修復帰要件

### 全学科共通

各学科における上記の履修継続要件を満たさなかった場合、Associate Membership<sup>※1</sup>へ移行となることがある。対象学生の Full Membership への復帰要件は以下の通りである。ただし、Full Membership への復帰申請可能時期は、最短で Associate Membership となった年度末とする。

- ・ 本人がメンバー復帰を希望していること
- ・ アソシエイツ期間の通算 GPA (入学からの通算 GPA ではない) について、学年内席次が原則上位2/3以内であること

※1 詳細は、Associate Membership 履修要項を参照すること。

## 履修方法、履修取消、成績、授業時間、講義室

### 1. 履修方法

履修登録は、所定の期間内に登録の手続きを行わなければならない。履修登録の受付は統合国際機構グローバル化推進係にて行う。

### 2. 履修取消

履修取消とは、一旦履修登録した科目を大学の定める一定期間（各科目の第3回目授業が開始されるまでとする）に本人からの請求により、履修を取り消すことをいう。履修取消を行った科目に関しては、成績証明書に記載されない。履修取消の手続きは、所定の様式によりグローバル化推進係に提出する。なお、期間内に履修取消の手続きを行わず、自ら履修を放棄した場合は「F」評価とする。

### 3. 成績

履修科目の成績は、本学学部専門科目履修規則に準じて付与される。各科目の責任者が成績評価を行い、その結果を各学科教育委員会に提出し、承認を受けた後各学部教授会で最終判定を行う。履修登録された科目の成績は、本学学部専門科目履修規則に準じて付与され、成績証明書に記載される。

### 4. 授業時間

	開講時期	曜日 <sup>※1</sup>	授業時間 <sup>※1</sup>
Contemporary Japanese Society (旧国際教養特論 1)	前期	火	16:20～17:40
Applied Critical Thinking for Health Sciences (旧国際教養特論 2)	前期	水 <sup>※2</sup>	16:30～17:50
		木	18:30～19:50
Fundamentals of Global Health (旧国際教養特論 3)	後期	木	18:00～19:20
Moral and Political Philosophy for Medicine (旧医療リーダーシップ特論 1)	後期	火	18:30～19:50
Introduction to Medical Anthropology (旧医療リーダーシップ特論 2)	後期	火	17:00～18:20
Bio-social Research Methods (旧医療リーダーシップ特論 3)	後期	木	19:30～20:50
Decision-making in the Health Sciences (旧医療リーダーシップ特論 4)	前期	水	18:00～19:20
Problem-solving in the Health Sciences (旧医療リーダーシップ特論 5)	後期	水	18:00～20:00

※1 学科/専攻における時間割状況にもとづき臨時で変更する場合がある。また、学科/専攻の必須/選択科目履修のため参加できない授業分については補講を行う。

※2 2018年度は、木曜日のみ開講予定。



5. 講義室

授業はM&Dタワー8階の「G-Lab」にて行われるので、場所を把握しておくこと。また、HSLP履修生用ラウンジを利用することができる。なお、G-Labおよびラウンジ等に個人の所有物などを放置しないように注意し、ルールに従うこと。

# Health Sciences Leadership Program (HSLP)

本プログラム修了までに履修者が修得すべき資質（コンピテンシー）、およびその習得方法（学習方略）

コンピテンシー	Capstone	Capstone 日本語訳	習得方法（学習方略）
<b>Technical Expertise</b>  <b>Global health knowledge</b> <b>グローバルヘルス知識</b>	<p>Demonstrates the necessary global health knowledge and skills to apply them to complex global/public health activities, accompanied by reflective insights or analysis about the aims and accomplishments of their actions.</p>	<p>グローバル・ヘルス領域で求められる知識と、それらを複雑な国際保健関連活動に活かせる技能を有する。自らの行動の目的と成果を省察し分析する。</p>	<p>本プログラム必須履修科目（特にIntroduction to Medical Anthropology (IMA/旧LHS2), Bio-social Research Methods (BRM/旧LHS3), Decision-making in the Health Sciences (DHS/旧LHS4), Problem-solving in the Health Sciences (PHS/旧LHS5)）において、実際のcaseの問題解決学習の課程で自己・グループ学習を行う。Caseにrelevantで、理解・応用のために系統的・包括的な学習機会が必要と思われる下記トピックについては、本プログラム必須履修科目（特にFundamentals of Global Health (FGH/旧GP3)）において学習機会を用意し補充する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>Global burden of disease</li> <li>Socioeconomic and environmental determinants of health</li> <li>Health systems</li> <li>Global health governance</li> <li>Human rights and ethics</li> <li>Cultural diversity and health</li> </ul>
<b>Relevant humanities and social science knowledge</b> <b>関連する人文社会科学知識</b>	<p>Demonstrates a high level understanding of PPE and its application into a wide variety of real world problems relating to health science, accompanied by reflective insights or analysis about their own accomplishments and their teams' actions.</p>	<p>政治経済哲学に関する高度な理解を有し、それらを現実社会における健康科学関連の課題解決に活用する。自身および自らのチームの行動の目的と成果を省察し分析する。</p>	<p>（系統的学習） 本プログラム必須履修科目（特にContemporary Japanese Society (CJS/旧GP1), Moral and Political Philosophy (MPP/旧LHS1), Fundamentals of Global Health (FGH/旧GP3)）において、以下につき包括的学習機会を用意する。 西洋哲学 (MPP) 政治・政策 (FGH) ・医療政策 ・医療関連法規 ・国際保健政策 経済学 (FGH) ・医療経済学 日本について、および比較文化社会学 (CJS) （応用学習） 本プログラム履修科目（特にIntroduction to Medical Anthropology (IMA/旧LHS2), Bio-social Research Methods (BRM/旧LHS3), Decision-making in the Health Sciences (DHS/旧LHS4), Problem-solving in the Health Sciences (PHS/旧LHS5)）において、実際のcaseの問題解決学習の課程で自己・グループ学習を行う。Caseにrelevantで、理解・応用のために系統的・包括的な学習機会が必要と思われるトピックについては、適宜補助講義などを用意し補充する。</p>
<b>Linguistic skills</b> <b>語学力</b>	TOEFL iBT 100	TOEFL iBT 100	語学力が劣る学生には、非常勤講師による特訓コースを提供
<b>Team-building functions</b>  <b>Intercultural knowledge and competence</b> <b>異文化知識・能力</b>  Intercultural Knowledge and Competence is "a set of cognitive, affective, and behavioral skills and characteristics that support effective and appropriate interaction in a variety of cultural contexts."  異文化知識・能力とは、「多様な文化的文脈において効果的で適切なインタラクションを行うのを下支えする認知的・情意的・行動的なスキルと特質の集合」のことを言う。	<p><b>Knowledge</b> Articulates insights into own cultural rules and biases. Demonstrates sophisticated understanding of the complexity of elements important to members of another culture in relation to its history, values, politics, communication styles, economy, or beliefs and practices. <b>Skills</b> Interprets intercultural experience from the perspectives of own and more than one worldview and demonstrates ability to act in a supportive manner that recognizes the feelings of another cultural group. Articulates a complex understanding of cultural differences in verbal and nonverbal communication and is able to skillfully negotiate a shared understanding based on those differences. <b>Attitudes</b> Asks complex questions about other cultures, seeks out and articulates answers to these questions that reflect multiple-cultural perspectives. Initiates and develops interactions with culturally different others. Suspends judgment in valuing her/his interactions with culturally different others.</p>	<p>知識（文化的自覚・文化的な世界観の枠組についての知識） 自身の文化的規則や偏見についての洞察をはっきりと述べている。歴史、価値観、政治、コミュニケーションスタイル、経済、あるいは信条や実践に関して、自分と異なる文化の成員にとって重要な要素が複雑であることについて、洗練された理解を示している。 スキル（共感・言語的および非言語的コミュニケーション） 自身の世界観、および一つ以上の世界観の見方から異文化経験を解釈するとともに、異なる文化を持つグループの感情を認識した支持的なやり方で行動できる能力を示している。言語的・非言語的コミュニケーションにおける文化的差異についての複雑な理解を明確に述べている。また、それらの差異に基づきながら共通理解を得るべくうまく交渉することができる。 態度（好奇心・オープンさ） 他の文化についての複雑な問いを投げかけ、これらの問いに対し多文化的な見方を投影した答えを探し出し、それをはっきりと述べている。文化的に異なる他者とのインタラクションを自分から始めて、それを発展させている。文化的に異なる他者とのインタラクションについて価値判断を保留している。</p>	<p>本プログラム必須履修科目 Contemporary Japanese Society (CJS/旧 GP1) において基礎知識を獲得する。  多数設けられる学内外の外国人留学生との交流（グループワークやワークショップも含む）機会に際して、自己振り返りと問題設定を行い、それを繰り返す。定期的にメンタリングを行う。  海外留学中定期的に、および帰国後に、自己振り返りと問題設定を行い、それを繰り返す。定期的にメンタリングを行う。</p>
<b>Teambuilding skills</b> <b>チームワーク</b>  Behaviors under the control of individual team members (effort they put into team tasks, their manner of interacting with others on team, and the quantity and quality of contributions they make to team discussions.)  チームワークとは、個々のチームのメンバーの統制のもとに行われる行動である（チームの課題に対する努力、他者との関わり方、チームで議論を行う際の貢献の質と量）。	<p>Contributes to team meetings Helps the team move forward by articulating the merits of alternative ideas or proposals. Facilitates the contributions of team members Engages team members in ways that facilitate their contributions to meetings by both constructively building upon or synthesizing the contributions of others as well as noticing when someone is not participating and inviting them to engage. Individual contributions outside of team meetings Completes all assigned tasks by deadline; work accomplished is thorough, comprehensive, and advances the project. Proactively helps other team members complete their assigned tasks to a similar level of excellence. <b>Fosters constructive team climate</b> Supports a constructive team climate by doing all of the following:  <ul style="list-style-type: none"> <li>Treats team members respectfully by being polite and constructive in communication.</li> <li>Uses positive vocal or written tone, facial expressions, and/or body language to convey a positive attitude about the team and its work.</li> <li>Motivates teammates by expressing confidence about the importance of the task and the team's ability to accomplish it.</li> <li>Provides assistance and/or encouragement to team members.</li> </ul> <b>Responds to conflict</b> Addresses destructive conflict directly and constructively, helping to manage/resolve it in a way that strengthens overall team cohesiveness and future effectiveness.</p>	<p>チームの話し合いへの貢献 代替的な考えや提案の長所を明確にすることで、チームが前に進むのを助ける。 他のメンバーがチームに貢献することの促進 誰かが参加していない時には、そのことに気づき参加を促すとともに、他のメンバーの貢献を建設的に積み重ねたり統合したりすることによって、チームのメンバーが話し合いに貢献するのを促進する、というやり方で、彼らをチームの活動に参加させる。 チームの話し合い以外の場での個人的貢献 決められた課題を全て締め切りまでに完成させる。そして、その成果は徹底的かつ包括的でありプロジェクトを前進させるものである。また、チームのメンバーが与えられた課題を自分と同レベルの卓越性で完成させられるように率先して助ける。 建設的なチームの雰囲気醸成 以下全てを行うことで、建設的なチームの雰囲気を支える。  <ul style="list-style-type: none"> <li>礼儀正しく建設的なコミュニケーションを行うことで、チームのメンバーを丁寧に扱う。</li> <li>チームやその作業に対する肯定的な態度を伝えるため、肯定的な話し方や書き方の調子、表情、および（もしくは）ボディランゲージを用いる。</li> <li>課題の重要さや、それを遂行するチームの能力に対する自信を表明することで、チームメイトを動機づける。</li> <li>チームのメンバーに対して、支援および（もしくは）励ましを与える。</li> </ul> <b>チーム内での対立への対応</b> 破壊的な対立に直接言及し、チーム全体の結びつきや将来的な効果を高めるやりかたで、その対立に取り組み解決することを建設的に助ける。</p>	<p>ファシリテーションスキルに関する1日程度のワークショップを履修早期に開催する。  本プログラム必須履修科目中に多数設けられるグループワーク機会において、常にチームメンバーとしての建設的な貢献が求められる。グループワークを通して、自己振り返りと問題設定を行い、それを繰り返す。定期的にメンタリングを行う。</p>
<b>Management skills</b> <b>マネジメントスキル</b>	<p>Delegates appropriate responsibilities in a fair manner, and periodically monitors the progress against milestones.</p>	<p>公平に適切な権限を委任し、定期的に目標と照らして進捗をモニタリングする。</p>	<p>マネジメントスキルに関する1日程度のワークショップを履修早期に開催する。  本プログラム必須履修科目中に多数設けられるグループワーク機会において、リーダーシップの発揮が求められる。グループワークを通して、自己振り返りと問題設定を行い、それを繰り返す。定期的にメンタリングを行う。</p>
<b>Leadership skills</b> <b>リーダーシップスキル</b>	<p>Serves as a role model in their own communities to bring change, and knows ways to deal with hardships associated with taking those initiatives.</p>	<p>所属するコミュニティにおいて変革を起こすロール・モデルとなる。そうした行動に伴う困難への対処方法を理解している。</p>	<p>リーダーシップスキルに関する1日程度のワークショップを履修早期に開催する。  本プログラム必須履修科目中に多数設けられるグループワーク機会において、リーダーシップの発揮が求められる。グループワークを通して、自己振り返りと問題設定を行い、それを繰り返す。定期的にメンタリングを行う。</p>

# Health Sciences Leadership Program (HSLP)

本プログラム修了までに履修者が修得すべき資質（コンピテンシー）、およびその習得方法（学習方略）

コンピテンシー	Capstone	Capstone 日本語訳	習得方法（学習方略）
<b>Critical thinking functions</b> <b>Critical thinking skills</b> <b>批判的思考</b> Critical thinking is a habit of mind characterized by the comprehensive exploration of issues, ideas, artifacts, and events before accepting or formulating an opinion or conclusion. 批判的思考とは、ある意見や結論を受容したり案出したりする前に、問題、アイデア、アーティファクト（人間の手で作られた物）、出来事などを包括的に探究するという特徴をもつ思考の習慣のことである。	Explanation of issues Issue/problem to be considered critically is stated clearly and described comprehensively, delivering all relevant information necessary for full understanding. Evidence Information is taken from source(s) with enough interpretation/evaluation to develop a comprehensive analysis or synthesis. Viewpoints of experts are questioned thoroughly. <b>Influence of context and assumptions</b> Thoroughly (systematically and methodically) analyzes own and others' assumptions and carefully evaluates the relevance of contexts when presenting a position. Student's position Specific position (perspective, thesis/hypothesis) is imaginative, taking into account the complexities of an issue. Limits of position (perspective, thesis/hypothesis) are acknowledged. Others' points of view are synthesized within position (perspective, thesis/hypothesis). <b>Conclusions and related outcomes</b> Conclusions and related outcomes (consequences and implications) are logical and reflect student's informed evaluation and ability to place evidence and perspectives discussed in priority order.	<b>課題説明</b> 批判的に考えるべき課題や問題が、完全に理解するために必要となる重要な情報を伴って、明確に記述され、包括的に説明されている。 <b>エビデンス（視点や結論を検討するための情報選択・利用）</b> 包括的な分析や統合を行うための情報を、十分な解釈や評価を伴い取得している。専門家の視点を完全に批判的にとらえている。 <b>文脈や仮定の影響</b> 自己や他者の仮定を徹底的（体系的・方法的）に分析し、見解を示す際、文脈の重要性を慎重に評価している。 <b>学生の見解（展望、主張または仮説）</b> 想像力に富み課題の複雑さを考慮した具体的な見解（展望、主張または仮説）が示されている。見解（展望、主張または仮説）の限界を認め、他の視点と統合されている。 <b>結論と関連する成果</b> 結論や関連する成果が論理的で、学生の知識に基づいた評価や、優先順位を付けて議論されたエビデンスや展望を提示する能力を反映している。	本プログラムにおけるすべての活動（グループワーク、相互対話型講義、エッセイほか）において批判的思考にもとづく意志判断と行動が求められる。 批判的思考に関するワークショップを履修早期に実施、そしてその後も定期的に開催する。 自己振り返りと問題設定を行い、それを繰り返す。定期的にメンタリングを行う。
<b>Information literacy</b> <b>情報リテラシー</b> The ability to know when there is a need for information, to be able to identify, locate, evaluate, and effectively and responsibly use and share that information for the problem at hand. 情報リテラシーは、情報がいつ必要なのかを知るための能力であり、目の前の問題のために情報を特定し、位置づけし、評価し、効果的で責任のある使用や共有を行うことができる能力である。	Determine the extent of information needed Effectively defines the scope of the research question or thesis. Effectively determines key concepts. Types of information (sources) selected directly relate to concepts or answer research question. <b>Access the needed information</b> Accesses information using effective, well-designed search strategies and most appropriate information sources. <b>Evaluate information and its sources critically</b> Thoroughly (systematically and methodically) analyzes own and others' assumptions and carefully evaluates the relevance of contexts when presenting a position. <b>Use information effectively to accomplish a specific purpose</b> Communicates, organizes and synthesizes information from sources to fully achieve a specific purpose, with clarity and depth. <b>Access and use information ethically and legally</b> Students use correctly all of the following information use strategies (use of citations and references; choice of paraphrasing, summary, or quoting; using information in ways that are true to original context; distinguishing between common knowledge and ideas requiring attribution) and demonstrate a full understanding of the ethical and legal restrictions on the use of published, confidential, and/or proprietary information.	<b>必要とされる情報の範囲の決定</b> リサーチエッセイやテーマの範囲を効果的に限定している。キーワードを効果的に決定できる。選択された情報（ソース）を概念と直接に関連付けるか、直接リサーチエッセイに答えるかしている。 <b>必要とされる情報へのアクセス</b> 良くデザインされた検索方略で、最も適切な情報ソースを効果的に使用して情報にアクセスしている。 <b>情報とそのソースの批判的な評価</b> 自己と他者の仮定を徹底的（体系的・方法的）に分析し、見解を示す際には文脈の関連性を慎重に評価している。 <b>特定の目的を達成するための、情報の効果的な活用</b> 特定の目的を完全に達成するために、ソースからの情報を、深く理解し、発信し、組織化し、総合している。 <b>情報の倫理的・法的なアクセスと使用</b> 学生は、以下の情報使用方略の全てを正確に使用している（引用や出典の使用、パラフレーズ・要約・引用の選択、もとの文脈にたして正しいやり方で情報を使用すること、常識と帰属を必要とする [= 誰のアイデアかを記すべき] アイデアとを区別すること）。また、公表された情報、内密な情報、および（もしくは）所有権情報に関する倫理的・法的な制限について十分理解していることを示している。	本プログラムにおけるグループワークやエッセイ提出などの際に、その問題解決過程において、情報リテラシーの理解とそれにもとづく行動が求められる。取組過程や発表・提出されるプロダクトにもとづくチャータリング・全体省察を通してこれら能力を洗練する。 自己振り返りと問題設定を行い、それを繰り返す。定期的にメンタリングを行う。
<b>Inquiry and analysis</b> <b>探究と分析</b> Inquiry is a systematic process of exploring issues/objects/works through the collection and analysis of evidence that result in informed conclusions/judgments. Analysis is the process of breaking complex topics or issues into parts to gain a better understanding of them. 探究とは、情報に基づく結論や判断をもたらす論拠（エビデンス）の収集と分析を通じて、論点、関心事、作品（ワーク）について検討する体系立ったプロセスである。分析とは、複雑なテーマや論点についてより良く理解するために、それらをいくつかの部分に分解するプロセスである。	<b>Topic selection</b> Identifies a creative, focused, and manageable topic that addresses potentially significant yet previously less-explored aspects of the topic. Existing knowledge, research, and/or views <b>Synthesizes in-depth information from relevant sources representing various points of view/approaches.</b> <b>Design process</b> All elements of the methodology or theoretical framework are skillfully developed. Appropriate methodology or theoretical frameworks may be synthesized from across disciplines or from relevant subdisciplines. <b>Analysis</b> Organizes and synthesizes evidence to reveal insightful patterns, differences, or similarities related to focus. <b>Conclusions</b> States a conclusion that is a logical extrapolation from the inquiry findings. <b>Limitations and implications</b> Insightfully discusses in detail relevant and supported limitations and implications.	<b>テーマ選択</b> 創造的に焦点化された扱いやすいテーマを選んでいて、重要である可能性があるがこれまでに検討されていない側面を取り上げている。 <b>これまでの知見・研究・観点</b> さまざまな観点やアプローチについて述べている。適切なソースからの詳細な情報を総合的に扱っている。 <b>デザインのプロセス</b> 方法論や理論的な枠組みのすべての要素が巧みに説明されている。学問領域中からもしくは関連する下位領域から、適切な方法論もしくは理論的な枠組みを総合的に扱うことができる。 <b>分析</b> 論拠を整理して総合的に扱い、問題の焦点に関連する洞察力を込んだパターン、違い、類似性を明らかにしている。 <b>結論</b> 探究で得た結果から、論理的に既知の事柄のことから推定を行った結論を述べている。 <b>限界点と示唆</b> 適切で裏付けのある限界点と示唆について、洞察力に富んだ議論を詳細に行っている。	本プログラム必須履修科目中に多数も受けられる個人またはグループでの問題解決演習、更にプロジェクト取組に際して、その問題探求・分析・解決過程において、これら能力にもとづく行動が求められる。取組過程や発表・提出されるプロダクトにもとづくチャータリング・全体省察を通してこれら能力を洗練する。 自己振り返りと問題設定を行い、それを繰り返す。定期的にメンタリングを行う。
<b>Reading</b> <b>読解</b> Reading is "the process of simultaneously extracting and constructing meaning through interaction and involvement with written language". 読解とは、「書き言葉との相互作用や関与を通して、意味の抽出と構成を同時に行う過程」である。	<b>Comprehension</b> Recognizes possible implications of the text for contexts, perspectives, or issues beyond the assigned task within the classroom or beyond the author's explicit message. <b>Genres</b> Uses ability to identify texts within and across genres, monitoring and adjusting reading strategies and expectations based on generic nuances of particular texts. <b>Relationship to Text</b> Evaluates texts for scholarly significance and relevance within and across the various disciplines, evaluating them according to their contributions and consequences. <b>Analysis</b> Evaluates strategies for relating ideas and data within a text in order to build knowledge or understanding within and across texts and disciplines. <b>Interpretation</b> Provides evidence not only that s/he can consider what s/he is reading from multiple views of knowledge but that s/he can also engage in reading as a means to continue dialogue within and beyond a discipline or a community of readers. <b>Reader's Voice</b> Discusses texts with an independent intellectual and ethical frame of mind so as to further or maintain disciplinary conversations.	<b>理解</b> 文章や見方、教室で与えられた課題を越える問題、もしくは著者の明確なメッセージを越える問題に対して、テキストが含んでいる可能性のあるものを認識している（例えば、より広範な問題を認識したり、著者のメッセージや説明に異議を唱えたりする）。 <b>ジャンル</b> 特定のテキストに関する一般的なニュアンスにもとづく期待や読解方略をモニタリングしたり、調整したりしながら、ジャンルの内部もしくはジャンルを超えて、テキストを特定する能力を用いている。 <b>テキストとの関係（文脈の中でテキストの意味を構成すること）</b> さまざまな学問分野の内部で、また学問分野をまたがって、学問的な意味や関連性という点からテキストを評価し、テキストの寄与や重要性にもとづくその評価を行っている。 <b>分析（部分的に、また全体的にテキストと相互作用を行うこと）</b> テキストや学問分野の内部で、またそれらをまたがって知識や見識を構築するために、観念やテキスト構造といったテキストの諸特徴を関連づけるための方略を評価している。 <b>解釈（意味の書写裏としてのテキストを理解すること）</b> 適切な認知的なレンズを用いて読むことができるだけでなく、学問分野やコミュニティの読み手の内部、もしくはそれを超えたところで継続している対話の一部としての読解に参加することができるというエビデンスを示している。 <b>読み手の声（テキストに関する学問的な対話に参加すること）</b> 学問的な会話を進めたり続けたりするために、自立した知的、倫理的な志向をもって、テキストについての議論を行う。	本プログラムにおいて課される読解課題や、本プログラム必須履修科目における関連資料の考察において、これら能力の発揮が求められる。発表・提出されるエッセイなどにもとづくチャータリング・全体省察を通してこれら能力を洗練する。 自己振り返りと問題設定を行い、それを繰り返す。定期的にメンタリングを行う。
<b>Oral communication</b> <b>口頭コミュニケーション</b> Oral communication is a prepared, purposeful presentation designed to increase knowledge, to foster understanding, or to promote change in the listeners' attitudes, values, beliefs, or behaviors. 口頭コミュニケーションとは、自分の知識を増し、理解を深め、あるいは、聞き手の態度や価値観、信念や、行動を変えることができるような、準備された、目的をもったプレゼンテーションのことである。	<b>Organization</b> Organizational pattern is clearly and consistently observable and is skillful and makes the content of the presentation cohesive. <b>Language</b> Language choices are imaginative, memorable, and compelling, and enhance the effectiveness of the presentation. Language in presentation is appropriate to audience. <b>Delivery</b> Delivery techniques make the presentation compelling and speaker appears polished and confident. <b>Supporting material</b> A variety of types of supporting materials make appropriate reference to information or analysis that significantly supports the presentation or establishes the presenter's credibility/authority on the topic. <b>Central message</b> Central message is compelling.	<b>構造</b> 構造的なパターン（具体的な導入と結論、文節で区切られた本文、つなぎ）が明確で、一貫してみられ、上手く、プレゼンテーションの内容を互いに関連づけている。 <b>言葉</b> 言葉の選び方が、想像力に富んでおり、印象的で、プレゼンテーションの効果を増している。プレゼンテーションにおいて、聴衆に応じた言葉を選んでいく。 <b>話し方</b> 姿勢（姿勢、ジェスチャー、アイコンタクト、声の表現）が、プレゼンテーションを説得的にしており、話者が洗練され、自信のあるように見える。 <b>サポート資料</b> 多様なサポート資料（説明、例、図解、統計、比喩、関係ある権威者からの引用）が、プレゼンテーションを大いに支持し、あるいは、トピックに対する発表者の信頼性や権威を確立するような書き手の理解したことを伝え、作品全体を形づくっている。 <b>ジャンルと学問分野の約束事（特定の形式や学問分野の文章作成に期待される公式・非公式のルール）</b> 特定の学問分野や文章作成課題に関連する広範な約束事（構成、内容、提示、書式、文体選択を含む）に対し、細心の注意を向けようとする。	口頭コミュニケーションに関する1日程度のワークショップを履修早期に実施、そしてその後も定期的に開催する。 本プログラム必須履修科目や、ワークショップ、プロジェクト取組、海外留学経験の発表など、本プログラムでは常に履修生に自身またはグループでの議論結果の発表を求める。発表内容にもとづくチャータリング・全体省察を通してこれら能力を洗練する。 自己振り返りと問題設定を行い、それを繰り返す。定期的にメンタリングを行う。
<b>Written communication</b> <b>文章コミュニケーション</b> Written communication is the development and expression of ideas in writing. Written communication involves learning to work in many genres and styles. It can involve working with many different writing technologies, and mixing texts, data, and images. Written communication abilities develop through iterative experiences across the curriculum. 文章コミュニケーションとは、文章作成（ライティング）によって自分の考えを展開・表現することである。文章コミュニケーションには、多くのジャンルと文体を使って書くようになることが含まれる。また、多様な文章作成テクノロジーを使って書くことや、テキスト・データ・イメージをうまくミックスさせることなども含まれる。文章コミュニケーション能力はカリキュラム全体を通じ、繰り返し書く経験を重ねることによって発達する。	<b>Context of and purpose for writing</b> Demonstrates a thorough understanding of context, audience, and purpose that is responsive to the assigned task(s) and focuses all elements of the work. <b>Content development</b> Uses appropriate, relevant, and compelling content to illustrate mastery of the subject, conveying the writer's understanding, and shaping the whole work. <b>Genre and disciplinary conventions</b> Demonstrates detailed attention to and successful execution of a wide range of conventions particular to a specific discipline and/or writing task (s) including organization, content, presentation, formatting, and stylistic choices. <b>Sources and evidence</b> Demonstrates skillful use of high-quality, credible, relevant sources to develop ideas that are appropriate for the discipline and genre of the writing. <b>Control of syntax and mechanics</b> Uses graceful language that skillfully communicates meaning to readers with clarity and fluency, and is virtually error-free.	<b>文章作成の文脈と目的（読者・目的や、課題をとりまく状況の考慮を含む）</b> 文脈・読者・目的について完璧な理解を示し、それによって、与えられた課題に対応し、作品のあらゆる要素に焦点をあてている。 <b>内容の展開</b> 適切で関連性があり説得力に富む内容を用いることによって、科目の習得ぶりを示すとともに、書き手の理解したことを伝え、作品全体を形づくっている。 <b>ジャンルと学問分野の約束事（特定の形式や学問分野の文章作成に期待される公式・非公式のルール）</b> 特定の学問分野や文章作成課題に関連する広範な約束事（構成、内容、提示、書式、文体選択を含む）に対し、細心の注意を向けようとする。	文章コミュニケーションに関する1日程度のワークショップを履修早期に実施、そしてその後も定期的に開催する。 本プログラム必須履修科目や、ワークショップ、プロジェクト取組、海外留学経験の発表など、本プログラムでは常に履修生に自身またはグループでの議論結果の文章での提出を求める。提出内容にもとづくチャータリング・全体省察を通してこれら能力を洗練する。 自己振り返りと問題設定を行い、それを繰り返す。定期的にメンタリングを行う。
<b>Creative thinking functions</b> <b>Creative thinking</b> <b>創造的思考</b> Creative thinking is both the capacity to combine or synthesize existing ideas, images, or expertise in original ways and the experience of thinking, reacting, and working in an imaginative way characterized by a high degree of innovation, divergent thinking, and risk taking. 創造的思考とは、既存のアイデア、イメージや専門的知識をオリジナルなやり方で結合し統合する能力であり、また、高度な革新、拡散的思考、リスクテイクングを特徴とする想像的なやり方で思考し、反応し、作業する経験である。	<b>Taking risks</b> Actively seeks out and follows through on untested and potentially risky directions or approaches to the assignment in the final product. <b>Solving problems</b> Not only develops a logical, consistent plan to solve problem, but recognizes consequences of solution and can articulate reason for choosing solution. <b>Embracing contradictions</b> Integrates alternate, divergent, or contradictory perspectives or ideas fully. <b>Innovative thinking</b> Extends a novel or unique idea, question, format, or product to create new knowledge or knowledge that crosses boundaries. <b>Connecting, synthesizing, transforming</b> Transforms ideas or solutions into entirely new forms.	<b>リスクテイクング（個人的なリスク（困惑や拒絶を恐れること）、すなわち、課題をうまくやり遂げること（例：課題の元の規定要素をのりこえて進む、新しい材料と形式を導入する、論争的な話題に取り組む、一般的ではないアイデアや解決方法を主張する）に失敗するリスクを含む）</b> 最終的な成果となる課題に対して、未だ検証されておらず潜在的なリスクを含むような方向やアプローチを積極的に追求し、最後までやり遂げている。 <b>問題解決</b> 論理的で首尾一貫した計画を作るだけでなく、解決方法の重要性を認識し、解決方法の選択理由をはっきり説明することができる。 <b>矛盾の受け入れ</b> 代替的、拡散的、あるいは矛盾をはらんだ見方やアイデアを完全に統合している。 <b>革新的な思考（アイデア・主張・問い・形式などの新奇性と独自性）</b> 新奇な（あるいは独創的な）アイデア・問い・型・成果物を拡張して、新しい知識や境界を超える知識を創造している。 <b>結合・統合・変換</b> アイデアや解決方法を全く新しい形式に変換している。	創造的思考に関するワークショップを履修早期に実施、そしてその後も定期的に開催する。 本プログラム必須履修科目中に多数も受けられる個人またはグループでの問題解決演習、更にプロジェクト取組に際して、創造的思考力の発揮が求められる。取組過程や発表・提出されるプロダクトにもとづくチャータリング・全体省察を通してこれら能力を洗練する。 自己振り返りと問題設定を行い、それを繰り返す。定期的にメンタリングを行う。